

今週のメニュー

■トピックス1

◇キャリア教育教材「おしごと年鑑 2025」に協賛しています

■トピックス2

◇第35回合同保安会議開催報告～

■トピックス1

◇キャリア教育教材「おしごと年鑑 2025」に協賛しています

塩ビ工業・環境協会（VEC）は、「おしごと年鑑 2025」（6月18日発行、朝日新聞社、75,000部）に協賛しています（今回で6回目の協賛になります）。

文部科学省が推進しているキャリア教育では、「働くことの大切さの理解」などを目的に、職場体験や企業訪問、出前授業、工場見学などの取り組みが進められています。

企業や団体の仕事を分かりやすく解説した「おしごと年鑑」は、企業と小中学校を結ぶキャリア教育向けの副教材で、総合学習や職業体験の授業で使われています。日本全国の小・中学校（28,693校）、聾学校（101校）、教育委員会、院内学級、児童養護施設、海外日本人学校、こども食堂などに合計75,000冊が寄贈されるほか、市販本としても発行されます。

「おしごと年鑑 2025版」では、子どもたちにとって身近な115のテーマに、企業や団体がズバリ回答します（下に代表例を挙げました）。子どもたちは日本を代表する企業の仕事を豊富な資料とかわいいイラスト、分かり易い文章で楽しく学べるようにできており、ワクワクしながら社会や経済のしくみを理解できる一冊となっています。

【企業・団体とテーマ】

- ・ポテトチップスの新製品はどうやって作るの？（株）湖池屋
- ・「赤いきつね」のつゆには、なぜ4種類の味があるの？（東洋水産株）
- ・富士山より高く水を吹き上げるものって何？（株）荏原製作所
- ・鉄は実はエコな素材って、ほんと？（日本製鉄株）
- ・重たいロケットが宇宙まで飛べるのはなぜ？（三菱重工業株）
- ・朝の放送番組はどう作られているの？（朝日放送テレビ株）



VECのページは『街のいろんなところで、塩ビが使われているってホント？』というタイトルで掲載。身近な暮らしの中で幅広く使用されている塩ビ製品、および、そのリサイクル事例などを分かり易く紹介しています（下図、168~169ページ）。



昨年、VECが実施した出前授業やキャリア教育（企業訪問）では、子供達から「おしごと年鑑を見たことがある」という声を聴くことも多くなり、おしごと年鑑が教育の場に浸透しつつあることを実感する機会が増えてきました。

<https://www.vec.gr.jp/lib/lib3.html>



また、「SDGsってなに？」のコーナーでは、『塩を60%含むプラスチック「塩ビ」』（279ページ）を掲載しました。海水の塩からつくられるプラスチックとして、その特徴を分かり易く紹介しています（左図）。

更に、「今すぐおしごと見学」のコーナーが新設され、オンライン見学ができるようになりました。VECでは動画を配信しています。

最後に「おしごと年鑑」の掲載記事を読むことができるウェブサイト「おしごとはくぶつかん」も9月に開設される予定です。ページの最後には復習用に、仕事に関連したクイズが用意されており、ゲーム感覚で繰り返し学べます。是非、ご覧ください。



■トピックス2

◇第35回合同保安会議開催報告～

塩ビ工業・環境協会（VEC）は、年に1回、技術ワーキンググループの活動として、合同保安会議を開催しています。今年は、7月3日から4日に掛けて、京都タワーホテルにて第35回合同保安会議を開催しました。今回の会議では、事務局を含む28名が参加し、コロナ禍前とほぼ同じレベルの参加人数での開催となりました。会議には、各会員企業のプラントで、実際にポリ塩化ビニル（PVC）や塩化ビニルモノマー（VCM）の生産に携わっている技術者の方々にご参加頂き、プラントの保安技術の向上やその他の安全意識の向上、ヒヤリハット事例の共有について議論が行われました。



会場の京都タワーホテル

7月3日の13時に集合し、開会のためのオリエンテーションを行い、初日の議論を開始しました。まずはヒヤリハット事例報告を、PVCとVCMで、それぞれ2班ずつに分かれ、計4班で議論を行いました。初日の議論を終え、懇親会を行い、参加者間の関係も強くなり、2日目のグループ別討議では、初日にも増して、活発な議論が繰り広げられました。各班の座長、および各班に1～2名の工場保安 Sub-WG 委員が務めるオブザーバーのご協力により、今回の会議は、大きなトラブルもなく終了することが出来ました。



開会の挨拶をされる山内主査

今回初めて、この会議に参加して、この会議に関するイメージが大きく変わりました。1件の説明が終わり、座長に促される間もなく、活発な意見交換が始まりました。ヒヤリハット事例発表では、PVC、VCMと生産品目により、グループ分けを行っていることから、同じ製品の生産に携わっているため、製法、設備、起こりうる問題の発生源等も十分に把握されており、「当社ではこのような対応を行った」、「このような対応もあるのでは」等、各社から色々な対応策が挙げられ熱い議論が続けられました。最後のアンケートでは、1日目の議論後の懇親会でのテーブル分けも、その班のまま議論を続けたかったとの意見もあり、議論の内容の濃さが感じられるコメントがありました。ほとんどの参加者からの意見は、好意的でしたが、各班の人数により、議論の時間が足りなかった班もあり、時間が余ったところもあり、次回の改善点であることが分かりました。さらにヒヤリハット事例発表では全く同じ案



にヒヤリハット事例発表では全く同じ案

件はなかったのですが、2日目のグループ別討議では、内容が被ってしまい、議論の件数が少なくなり、時間が大幅に余ってしまった班がありました。またヒヤリハット事例の方が、色々な情報交換が出来るケースが多く、時間も必要となるため、グループ別討議を初日に、ヒヤリハット事例報告を2日目に持ってきた方が、時間が余ることが無い、もしくは班のメンバーを多くする方が良いとの意見もありました。

今回の参加者から提出頂いたアンケートの内容を踏まえ、来年の合同保安会議の形式について、工場保安 Sub-WG 委員の皆様と検討し、更に有意義な会議としていきたいと考えています。

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp
